

2019年11月21日

関西大学

弁護士 ■■■ ■■■ 様

弁護士 ■■■ ■■■ 様

アイススケート部織田前監督からの申出等への本学の対応（概要）

アイススケート部織田前監督からの2019年7月1日付け申出(以下「本件申出」という。)に対し、本学が7月末までに濱田コーチら関係者から事情聴取(以下、「本件事情聴取」)した結果のうち一部を書面にてお知らせします。なお、下記開示内容については、申出者等へのさらなる確認が必要であると思われます。

(注1) 本件申出があった後、所管の学生センターが中心となり、7月末までに、濱田コーチを含む関係者から事情を聴いた。聴取の概要は下記のとおりである。

なお、本件申出には、織田前監督に帯同した■■■弁護士や、同前監督の所属事務所の社長等が同席したが、その場では、主たる申出内容は指導方針の相違等に関するものであり、本学関係者に周知している「関西大学ハラスメント防止に関する規程」に基づく申出等はなかった(なお、■■■弁護士には、10月7日に、かかる制度について改めて説明をしている)。

(注2) 聴取の結果のうち、明らかに「ハラスメントの有無」に直接関わる部分は、ここでは触れていない。

(注3) 聴取後に速やかに織田前監督側に伝えなかったのは、織田前監督の体調が万全でないことが察せられたからであるが、その後、本件事情聴取の概要はすでに本学理事(弁護士)から双方の代理人(弁護士)に口頭で説明済みである。

記

1 練習時間の変更

【織田前監督の申出】

- ・2019年2月頃に練習時間を変更した。理由は、小中学生(育成枠)の練習時間帯が13:30~15:00に設定されている事から、学校を早退してきており、教育機関として良くないと考えたため。
- ・4月以降、濱田コーチ、部副顧問が相談し、監督である自分に相談する事もなく2月に変更した練習時間帯を勝手に元に戻した。

【関係者への聴取結果】

《濱田コーチ》

⇒ 2019年1月24日に織田監督から、練習時間の変更について提案があったが、次の点について指摘した。

- ・スケートクラブの小中学生が学校を早退して来るのを防ぐために、早朝からの練習時間に変えたが、スクールの指導者でもあり、時間変更提案者の本人は来ない。
- ・始発バスに乗っても練習開始時間に間に合わない生徒もおり、みんな困惑している。加えて、他の団体（スピード部門・ホッケー部等）の事はいっさい考えていない。

⇒ 4月、5月の2ヵ月間はとりあえず我慢して、変更された時間で練習したが、みんなが困惑している状況だったため、スケートクラブの父母にアンケートを取り、他の指導者の意見も聞いた結果、元に戻してほしいという意見が殆どであったことから、5月22日の指導者ミーティング（部顧問、同副顧問、濱田氏らコーチ3人が参加、織田監督は欠席）を経て練習時間を元に戻した。

⇒ 練習時間の変更については、部顧問から織田監督に説明することになった。

《他のコーチ陣》

⇒ 変更期間中は、関大の選手も育成卒の小中学生も、練習参加者が減っていた。また、練習時間の変更は、小中学生が学校を早退して来ることが教育上よくないという理由であったが、変更後は逆に学校に遅刻することになっており、保護者からも不満の声があがっていた。練習時間を元に戻す事については、5月22日のミーティングで決めた。全員の総意であった。

⇒ 変更された練習時間を元に戻す2日前の5月20日（月）に、濱田コーチが織田監督に直接、「5月22日のミーティングで協議し元に戻す。」という事を伝えており、本人も気が進まない感じではあったが「はい、はい」と返事していた。

⇒ 変更した練習時間については、ありがたいと感じている選手もいなくはないものの、不満の声も多かった。個人的には選手が睡眠不足に陥り、怪我に繋がらないかと心配していた。率直に言って効率的ではなかったので、元に戻したという感じだ。

2 部則の変更

【織田前監督の申出】

⇒成績不良者を出さないよう、幹部と相談し、部則の変更を試みたが、反対されている。何故、反対されるのかわからない。

【関係者への聴取結果】

《濱田コーチ》

⇒ 2019年1月24日に織田監督から、部則の変更についての提案があったが、次の点について指摘した。

◇休学—大学で定められている学生の権利なのに、部則で休学してはいけないとすることは適切か。

◇修学面—学生には勉強するように促すべきであるが、成績不良者にペナルティー（アリーナでの練習禁止）を課すのはどうか。

⇒ 5月の連休中にある部員から、部則変更により、スケートを滑れなくなるかもしれないので不安だという相談があり、他のコーチ陣からも同様の相談があった。

これを受け、指導者間で相談がないまま部則を変更する事について、5月22日の指導者ミーティングで話題としたが、部顧問から、部則は指導者間で話し合ってから変更するので、安心いただきたいとの発言があった。それにも関わらず、6月最初の学生ミーティングで織田監督から部員に新部則が発表され、書類は7月に渡すと発表された。学生もみんな不安がっている。

⇒ 部則の変更等、何度も同席の上で話をするよう提案しているにも関わらず、織田監督は欠席して応じていない。

《他のコーチ陣》

⇒ 個人的には相談も受けていないし、書類も見えていない。修得単位が不足すると重いペナルティーを受けるという事は聞こえてきた。現役選手だけでなく、関大を目指している高校生も、関大に進学してもスケートが滑れないかもしれないという事で混乱し相談しに来た。もっと選手側に立ってあげてほしいとは個人的に感じた。

指導者間では反対していたが、織田監督本人に伝える機会はないまま今に至っている。部顧問からは、猶予期間等を設けるので安心していいと言われている。

⇒ 直接相談を受けたりすることはなかったが、単位修得不足の学生は成績発表後に練習参加できないと聞いた。試験前に練習参加させずに勉強させるならまだ理解できるが、成績発表後に練習参加させないのはただのペナルティーに過ぎず、単位修得に繋がらないので意味がないと感じている。

⇒ 5月22日のミーティングにおいて、部顧問から移行期間も設けるという事と、指導者に相談してから決める事案なので安心するよう言われていたが、翌週には選手の間には部則変更の話が広まっていた。何故って感じである。

指導者に周知されることがないまま、学生ミーティングにおいて織田監督から周知されたようである。ある学生は基準から1単位不足しているので、10月に滑れなくなると監督から直接言われたそうで、どうしていいかわからないと相談に来た。

3 8の字練習

【織田前監督の申出】

・安全面から、3人以上で行わないと決めた『8の字練習』を、5人で行っていたので、危ないことから止めるよう注意したが（濱田コーチから）無視された。

【関係者への聴取結果】

《濱田コーチ》

⇒ 当該事案の発生時、自分はリンクにいなかった。

《他のコーチ陣》

⇒ 当該事案は、濱田コーチではなく、他のコーチのもとで起こったことである。

当該事案は、織田監督が監督に就任する前のことである。『8の字練習』は4人で行うというルールを設けたのは、当該事案発生後のことである。

以 上